

# 松江保健生協 2021 年度のまとめ

(はじめに)

2021年度は昨年度を上回る新型コロナウイルス感染拡大により、患者、利用者の減少、支部や班の活動自粛を余儀なくされました。このような中でも事業所では陽性患者の入院受け入れやワクチン接種など地域や行政の要求に応える活動をすすめました。

組合員の活動では感染対策の工夫を行い、健康づくり、つながりづくりを中心に昨年を上回る成果を出すことができました。

コロナ禍の中で、保健生協の事業と組合員活動の果たす役割をあらためて実感する年度となりました。

## 1. コロナ禍でも感染防止をすすめ、工夫しながら健康づくり、つながりづくり

コロナ禍での取り組みとなりましたが、感染対策を行い、企画内容や運営を工夫し、支部を単位に取り組みが前進しました。

グラウンドゴルフは19支部・ブロックで開催し過去最高の471人参加がありました。また、「寄せ植え」も19支部405人の参加、「ウォーキング・登山」「お出かけ交流会」なども生協強化月間企画として実施されました。

この取り組みであらたなつながりが広がり、組合員増やしにも結びつきました。

健康チャレンジは過去最高の10,663人、仲間でチャレンジも756グループ、2,900人が参加し、5班の復活と新班13班の誕生につながりました。

第4回松江保健生協「すこしおレシピコンテスト」を開催し、18人23レシピの応募があり6件が入賞しました。医療福祉生協連の全国コンテストにも応募し昨年に続き入選を果たしました。また、「すこしおレシピ」集を発行しました。

## 2. 居場所づくり、支え合い、安心を広げる取り組み

サロンは、開催自粛の期間がありましたが、運営を工夫して、延べ36回578人の参加となりました。つながりづくりでは、「つながりカード」の地域配布など内容を工夫し取り組まれました。

また、インターネットを活用した介護医療院虹へのボランティア活動が定着しました。

フードバンクしまね「あったか元気便」は、対象学校が11校に拡大し、延べ1,405世帯、ご家族延べ4,940人（昨年761世帯、ご家族2,626人）に15トン（昨年8.4トン）の食料品をお届けしました。ボランティア参加も増え866人（昨年439人）と広がりました。なないろ食堂は14回開催、73人の子どもたちが参加しました。そのうち、お弁当のテイクアウトは3回、お昼ご飯付き寺子屋（学習支援）は4回開催しました。

「おたがいさま支えあい基金」は、91万円の募金のご協力を頂き2017年からの累計は685万円となりました。「無料低額診療事業」への支援には79万円、「その人らしくを支える支援」には61件、12万円を支援しました。

### 3、新たな「ビジョン」の検討と必要利益、組合員、出資金など経営基盤を強化する取り組み

次期ビジョンの柱となる生協病院医療構想、介護事業構想、組織活動構想、中長期経営計画が提案されました。理事会として第2期「あったかまちづくりビジョン」（案）を作成しました。すでに構想の具体化がすすんでいる課題もありますが、各事業所、支部での検討は、次年度に計画していきます。

コロナ禍により、医療、介護事業では患者、利用者は感染拡大以前に回復できていない状況が続いています。一方、陽性患者さんの入院受け入れや休日を含めたワクチン接種など地域の要求に応えながら経営改善も行いました。経常剰余は2億8,488万円となり年度予算を超過しました（予算1億3,824万円）。組合員増やしでは1,111人（目標1,500人）、出資金増やしで2億568万円（目標2億3千万円）となりました。

### 4、生協の社会的役割発揮、1支部1SDGsの実践

SDGsの学習と実践がすすみました。支部、班会での学習会は8支部、6班で127人の参加で開催されました。また、本庄支部の海岸清掃、揖屋西支部のエコバッグづくりなど、支部を中心としたSDGsの実践が進みました。

平和・憲法を守り、社会保障の充実を目指す取り組みは、「核兵器禁止条約に批准を求める署名」514筆、「75歳以上医療費窓口負担2割化中止を求める署名」567筆が集まりました。第33回「戦争体験を語り継ぐ集い」は入場制限を行い90人の参加者で開催されました。